

## ■事業報告

## 県博バックヤードツアー

平成29年度「国際博物館の日」関連事業

平成29年5月21日（日）に岩手県立博物館では、平成29年度「国際博物館の日」関連事業として、「県博バックヤードツアー」を開催しました。

「国際博物館の日」とは、博物館が社会に果たす役割を広く普及・啓発することを目的として1977年にICOM（International Council of Museums；国際博物館会議。「イコム」もしくは「アイコム」と呼ばれ、世界の博物館関係者で組織される国際会議）によって制定されました。当館を含め、この活動に賛同する世界中の博物館では、5月18日を中心として、無料開館や特別講演会、地域連携事業の実施といった様々な記念行事が行われております。

当館では国際博物館の日記念事業の一環として、平成18年度より「県博バックヤードツアー」を開催しております。博物館のバックヤードは厳密な温湿度管理や防犯態勢が必要となるため、通常は職員以外の立ち入りを禁止しております。しかし博物館の普及啓発を目的とした国際博物館の日に限り、普段は立ち入ることができない当館の収蔵庫等の設備を特別に見学してもらい、表からは見えない博物館の資料収集保存活動を知ってもらうことを目的として当事業を開催し、今年度で12回目の実施となりました。

今年度のバックヤードツアーでは、「文化財レスキューコース」「自然史コース」「歴史コース」の3つのコースを設



図1. 文化財レスキューコースの様子



図2. 自然史コースの様子

け、それぞれ事前に御予約いただいた参加者の皆様に、希望するコースを60～80分ほどで周っていただきました。

午前と午後の2回行った「文化財レスキューコース」では、被災した文化財がどのように当館に搬入され、どのような経緯を経て安定化処理がなされるのかを見学してもらいました。津波によって被災した資料は海水に浸かってしまっているため、まず塩分を抜くための脱塩処理から始まり、最終的に人の手によって一点一点、地道な作業を経て安定化がなされることを初めて知り、驚かれた方もいらっしゃったようです。施設の見学の後には、当館学芸員の立ち会いのもとで参加者の方にも実際に資料の安定化処理に加わっていただきました（図1）。最初は緊張した面持ちで作業をされておりましたが、徐々にコツをつかむと、最後には立派に作業を完了されていました。

午前に行った「自然史コース」では、生物部門と地質部門の収蔵庫を中心に見学をしました。生物部門の収蔵庫では、大量の動物の剥製標本や昆虫標本、植物の押し葉標本、魚類の液浸標本等の観察をしました。参加者の方々は今にも動き出しそうな生き生きとした剥製標本をじっくりと観察されておりました（図2）。また、地質部門の収蔵庫では、当館に所蔵されている岩石や化石標本の観察を行



図3. 歴史コースの様子

さんの木箱にはどのような標本が収納されているのか、ひとつひとつ引き出して興味深く観察される姿が見られました。

午後に行った「歴史コース」では、考古、民俗、歴史部門の収蔵庫を周りました。考古部門の収蔵庫では、当館に所蔵している土器や石器標本の見学を行いました。大昔の岩手の人々が使っていた道具を、展示室よりもずっと間近で見ることができ、満足されていたようでした。また、民俗部門の収蔵庫では時代がぐっと新しくなり、近代の道具を観察しました。中にはまだ実際に稼働する昭和時代のソノシートと再生機器があり、当時の音を再生してみました。参加者の中には、懐かしさを感じ、当時のことを思い出した方もいらっしゃったようです。最後に歴史部門の収蔵庫では、大きな絵画や刀の収蔵方法等について見ていただきました。刀は刃と柄の部分を別々に分けて収蔵、保管するといった意外な事実を知ることができました。

参加者の方々はバックヤードツアーを通じて、展示室に展示されている標本が登録されている資料のほんの一部であることを実感され、とても驚かれていたようでした。岩手県立博物館では、来年度以降もこのような活動を継続して行っていきたいと考えております。

（学芸員 望月貴史）